

「容器検査で保安の確保を」

一般財団法人

全国高圧ガス容器検査協会

〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-6-7本間ビル4F

電話 03-3861-3851 <http://www.zenkenkyo.jp/>



専務理事 時田 喜代一

■当協会は、1973年5月任意団体 全国LPガス容器検査所連合会として創立しました。2012年4月一般社団法人全国高圧ガス容器検査協会（以下全検協）として法人化し業務を開始。2023年に創立50周年を迎えました。現在会員企業は、正会員91社（LPガス容器検査所・一般高圧ガス容器検査所）賛助会員22社（関連企業）で構成されております。高圧ガス容器の検査を通して業界の保安確保に努めて参りました。

■活動としては、理事会での決議事項等の情報を発信し、LPガス技術委員会・一般高圧ガス技術委員会、各容器検査の講習会等を実施しております。2024年度は、LPガス容器検査講習会を実施しました。また、各委員会で容器検査テキストとして、『高圧ガス容器再検査及び設備基準』LPガス編、一般高圧ガス編を作成しており、その他の要望にも応え、他の容器再検査についても作成しています。今年度は、容器検査テキスト『高圧ガス容器再検査及び設備基準』LPガス編および一般高圧ガス編の改訂版を作成し、両委員会主催の講習会を実施する予定です。そのほか下部組織として「全検協青年部会」を2019年5月に設立。現在27名の正会員・賛助会員（50歳以下の有志）で構成され、海外研修（LPG EXPOベトナムに参加）国内研修（北海道・九州視察研修）を開催し、業界の次世代を担う者として見識を深めています。2023年7月には、韓国ガス専門検査協会を訪問し、2024年3月に韓国ガス専門検査協会が当協会を訪れ意見交換会を実施しました。その後、日本の容器検査所の視察が企画され青年部会会員が随行し工場見学を行い帰国されました。

■LPガス容器検査所業界の容器検査対象本数については、2025年度は481万本と前年比1.8%減少する見

込みです。5年先まで見るとMax 512万本、Min 429万本と増減の繰り返しとなっています。バルク貯槽のくず化への取り組みに関しては、ピーク時を迎える中、順調に推移しております。また、容器検査所の数については、検査設備の老朽化により設備の更新が必要となっており対応できない検査所の廃業も出てきたように感じます。会員数の減少を止めるため今後は、魅力ある業界団体として、地域毎の活動を推進し、情報の共有及び検査所相互の交流を図ることで、未加入の検査所の掘り起こしを行い、会員の増強を図っていこうと思っています。

■「保安なくして未来なし」と言われるように、当業界の最大の使命は保安の確保です。高圧ガス保安法を遵守し、労働安全法をはじめとする規制の改訂に迅速かつ適正に対応するとともに、最新情報を業界内で広く共有し、安全性の確立に向けた取り組みを続けて事業を取り巻く環境の変化に柔軟に対応してまいります。日々進歩する容器検査の技術と知見を高めることにより、保安を担う協会として会員及び賛助会員あるいは、関係する企業や団体との連携を強化し業界の発展に努めていく所存です。



高圧ガス容器再検査及び設備基準 各種